

安全衛生 あれこれ

66

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

いのち輝け 未来の職場 ～万博と「世界安全週間」～

改正安衛則による熱中症の新たな基準が慌ただしく施行された中、全国安全週間が「多様な仲間と築く安全未来の職場」とのスローガンの下に始まりました。

「未来の職場」といえば、今開催中の大阪・関西万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしています。本稿のタイトルは2つのスローガンとテーマを合体させました。万博のサブテーマは「①命を救う、②命に力を与える、③命をつなぐ」で、多様な国々の仲間たちが集い未来の命を考える機会とされ

ています。つまりは、全国安全週間の意義と共通しています。

その万博の公式ガイドブックを見ると労働災害防止に関するイベントが掲載されています。それは「未来への贈り物80億人の安全・健康・ウェルビーイング」です。主催するのは「GISHW」(※1)で、会長は筆者が安全の大御所として尊敬する向殿政男氏(明治大学名誉教授)です。先生は「ゼロ災運動(中災防が50年以上にわたり推進)」の国際版「ビジョン・ゼロ」(※2)の考えに基づ

き、持続可能で「安全、健康、ウェルビーイング」(※3)な未来社会の実現を世界レベルで目指そうと呼びかけているのです。

具体的には、この7月16日から19日に、万博会場等において、サミット、世界総会、ILO青年会議、国際シンポジウム、フェスティバル、展示会、標準化フォーラムの7つの活動を行うと広報しています。

全国安全週間には遅れませんが「世界安全週間」の行事が行われるかのようです。是非いずれかに参加し仲間の一員になりたいものです。

さて、以前にも紹介しました「労働安全衛生世界デー」(国際労働機関(ILO))が、今年も去る4月28日に開催されました。令和7年のテーマは「健康と安全の革命…職場でのAIとデジタル化の役割」でAIとデジタル化が労働安全衛生システムをどのように再構築しているかを探りました。AIとデジタルツールは、労働安全衛生の世界においても改革をもたらし、

作業の一層の安全化が進められています。

最近WEBで見たのは「ゴミ収集車安全支援システム」です。ゴミ収集車は街の人気者。子供たちが通り過ぎる同車に手を振っています。しかしゴミ収集作業員や市民がゴミの積み込み時に誤ってプレス板に巻き込まれる危険があります。これをカメラとAIの技術により空間に安全バリアを設けて、人とゴミを見分け危険時には機械が止まる装置が開発され、安全な作業を支援しています。さまざまな分野でこの種の技術開発が進むことを願っています。もちろん、何事も新しい技術やシステムは、新たな危険や作業の強化等の問題が発生する可能性もあることを私たちは過去から学んでいます。

※1 GISHW「Global Initiative for Safety, Health & Well-being」を略称とする団体。地球上の80億人以上の人々の仕事と生活の質を向上

させる「安全、健康、ウェルビーイング」な未来社会の実現を目指すとしています。

※2 ビジョン・ゼロ(一社)セーフティグローバル推進機構(IGSAP)会長はこちらも向殿教授)によると2014年ドイツで開催された「世界労働安全衛生会議」でゼロアクシデントを目指すことされたもので、国際社会保障協会(ISSA)が推進母体となつています。また同機構ではビジョン・ゼロの推進を図る「七つのゴールデンルール」を示すと共に「ビジョン・ゼロ宣言」の取組が注目されます。

※3 ウェルビーイングWellbeing(世界保健機関)は『身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること』と定義しています。日本語訳では「福祉、幸せ」等がありますが、適切な言葉が見つからない概念です。「まあまあ」「ぼちぼちでんな」はどうでしょう？